

令和6年度《学校経営計画》

名張市立桔梗が丘小学校

学校長 前田 かおり

1 学校教育目標

「伸びよう つながろう 輝こう」～主体的に学び活動する子の育成～

2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの思いや願いが大切にされ、一人ひとりが生き生きと楽しく学べる学校 ○ とともに学び合い、ともに高まっていこうと協力し合う学校 ○ 元気なあいさつと明るい会話が交わされる笑顔いっぱいの学校 ○ 家庭・地域から信頼される開かれた学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ☐「考える子」 自分の考えや夢をもち主体的に学び続ける子 ☐「がんばる子」 めあてをもって取り組み、最後までやりぬく子 ☐「優しい子」 相手の思いを受け止める人間性豊かな子 ☐「協力する子」 なかまとつながり、支え合って共に生きていこうとする子
○教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもに寄り添い、その思いや願いを傾聴し、誠意と情熱をもって取り組む教職員 ○ チームワークを大切にし、信頼し合い、支え合って取り組む教職員 ○ 使命と責任を自覚し、積極的に研修と修養に努める教職員 ○ 児童・保護者・地域から信頼・尊敬される教職員
○保護者・地域像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもを見守り育てる保護者・地域 ○ 学校の取り組みを理解し、連携・協働する保護者・地域

3 学校の現状

- ・多くの児童は基本的な生活習慣が身につけており、学習や行事等に協力して取り組むことができる。しかし、積極性や表現力に課題の見られる児童が多く、これまでの学習を活用する、他者と関わりながら追及していく姿があまり見られない。
- ・若手教員が半数以上を占め、育成を担う中堅教員が不足している。
- ・学級での様々な仲間づくりの取組から、学校で友だちと過ごすことを楽しみにしている児童が多い。児童アンケート「友達と仲良く過ごしている」と答えた児童が97%であった。一方で、不登校・不登校傾向の児童の増加が課題となっている。
- ・保護者や地域の方は、学校教育に対する関心が高く、協力的である。児童の体験活動への協力や登下校の見守り、読み聞かせなど支援をいただいている。
- ・時間外労働時間の縮減に向けて教職員の意識は高まりつつある。また、ICTを活用した会議、保護者配布文書のデータ化を進めていく中で、業務のスリム化につながっている。

本年度の改善方策

- ・校内研修を充実させ、授業改善に努める。
- ・各行事において「児童につけたい力」を明確にし、カリキュラムに位置づけることで児童の主体性を育む。
- ・「道徳教育総合支援事業」「若手教員等の育成を核とした授業力向上の取組推進事業」を活用し、若手教員の育成に努める。
- ・児童の自己肯定感を育むための基盤として、教室が安心・安全な場所になるよう取り組みをすすめる。
- ・関係機関との連携を密にし、不登校の未然防止に努める。
- ・学校運営協議会において児童の実態を共有し、めざす子どもの姿に向けて熟議を行う。
- ・ICTの活用によりさらなる業務改善を行う。
- ・情報共有を大切にした風通しの良い職場環境作りに努める。時間外労働時間が月30時間以下となるよう、意識改革を行い、心身ともに健康な職場づくりをめざす。

4 重点的な取組事項

番号	内 容	実 施 期 間				
		4	5	6	7	8
1	主体的に学習できる魅力ある授業づくりを通しての学力・体力の向上	◎	◎	◎		
2	一人ひとりの人権・命を大切にする、なかまづくり	◎	◎	◎		
3	保護者・地域・保育所や中学校と連携した教育の推進		◎	◎		

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学びをつなぐ：主体的に学習できる魅力ある授業づくりを通しての学力・体力の向上
A 今年度の成果目標	
95%以上の子どもが、「授業がわかる」・「よく運動する」、また80%の子どもが「粘り強く学習に取り組んでいる」と思えることをめざす。	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	「めあて」「ふりかえり」「見通し」を大切にした授業づくり、1指示1行動での指導、視覚支援や構造化された教室環境など、特別支援教育の視点に立ったきめ細やかな指導を行う。
②	ペアやグループ学習を積極的に取り入れ、「聴いて考えてつなげる」授業づくりを行う。
③	「学習意欲を高める授業づくり」を目指し、授業改善に向けて校内研修を充実させる。

重点的な取組事項－2	心をつなぐ：一人ひとりの人権・命を大切にする、なかまづくり
A 今年度の成果目標	
友だちと仲良く過ごしていると思える子どもが95%以上になることをめざす。 「自分には良いところがある」と思える児童が90%以上になることをめざす。	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	自分の思いや願いをみんなに伝えることができるとともに、友だちの思いを受け止め、互いにつながっていくなかまづくりを進める。
②	小さな自己決定の場を積み重ねることにより、児童の自己肯定感を高める。
③	保護者との日常的な懇談、スクールカウンセラーや関係機関との連携に積極的に取り組み、学校が児童にとって安心・安全な居場所となるよう努める。

重点的な取組事項－3	保護者・地域・保育所や中学校と連携した教育の推進
A 今年度の成果目標	
保護者アンケート「学校は、子どもの様子、学校の様子をわかりやすく伝えている」・・・あてはまる90%以上をめざす。 「学校は、地域を愛する子どもを育てようとしている」・・・あてはまる80%以上をめざす。	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	学年・学級だより、学校だより、ホームページを活用し、情報発信に取り組む。
②	保育所・小学校・中学校の接続を意識した活動を行う。
③	ふるさと学習「なばり学」を中心とした郷土愛を育む教育活動を行う。

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標		
成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	30時間以下(30時間以下の範囲)
	年360時間を超える時間外労働者数	0人 (変更不可)
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人 (変更不可)
具体的な方策	<p>○働きやすい職場環境づくりに努める。</p> <p>○タイムカードによる在校時間の把握の徹底により、意識改革を図る。</p> <p>○遅くとも18時30分には退校するよう、互いに声掛けをしながら業務をすすめる。</p>	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	12日以上(各学校で設定)
具体的な方策	<p>○学校閉校日を夏季休業中に4日間設定する。</p> <p>○休暇取得に対する個々の意識を高めると共に、休暇の取りやすい職場環境づくりをすすめる。</p>	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	80%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	50%以上
具体的な方策	<p>○定時退校日を毎月全体として2日、個人として1日設定し、見通しをもって業務を行う。</p> <p>○スクールサポートスタッフ、学校業務支援員を効果的に活用する。</p>	